

クリーンレイク諏訪 諏訪湖だより



第45号 (R元.7月発行)

今月のトピックス

下水道管の更生工事を行っています

諏訪湖流域下水道は、諏訪湖の浄化を目指し、さらに、諏訪地域の皆さまのライフラインとして、昭和54年10月から下水の処理を開始し、今年の10月で40周年を迎えます。

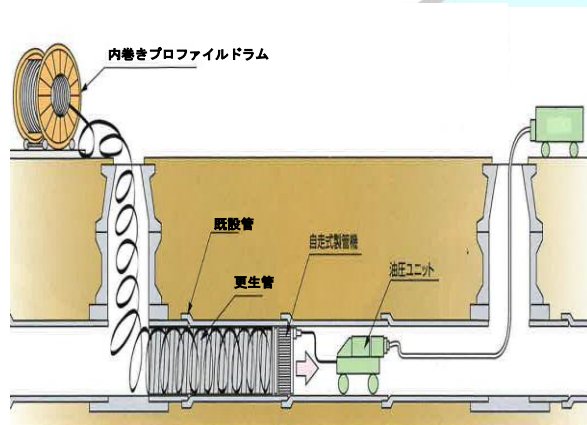
この40年間、毎日下水を処理し続けた結果、諏訪湖もきれいになり、住民の皆さまにも快適な生活をご提供できているかと思えます。

一方、40年も経つと、設備の老朽化や劣化もひどくなり、定期的な補修や交換を行っていかなくてはなりません。

そこで、今回は、現在行っている地下に埋められている下水道管を新しく生まれ変わらせる更生工事をご紹介します。

皆さんのお家から流れ出た下水は、まずお家の前の市町村が管理する管に入ります。そして、県が管理する大きな管へとつながり、処理場まで流れてきます。市町村の管理する管(1,374 km)と県が管理する管(55 km)はすべて地下でつながっていて、全部をつなげると、諏訪から沖縄までの距離になります。すごい長さですね。

そのうち、県の管理する管のうち特に劣化のひどい管をよみがえらせるため、管の内側に帯状のプラスチックをらせん状に隙間がないように巻き、新しい管を取り付ける工事を行っています。



(出典) 日本SPR工法協会 「下水道管リニューアルのすすめ 総合カタログ」

これを行うことにより、道路を掘り返して新しい管に交換することなく、長く使用できるようになります。

前号で紹介しました耐震工事同様、この工事も下水の少ない深夜に行っていますが、工事場所の道路では通行規制を行う必要があります。

御不便をおかけしますが、御理解、御協力をお願いします。



水槽に幻の「ウナギ」がいます

管理本館に入って、左側に水槽が2基あるのは、御存じでしたか？

この水槽には、諏訪湖や諏訪湖に流入する河川に棲む魚を展示しています。

この水槽のうちの1基に、なんと体長約30cmの「ウナギ」が1匹います。

日頃は、警戒心が強く、底の小石の中に潜っており、ほとんど見ることはできません。

水槽をいつも清掃している業者さんですら、見たことがないという幻（まぼろし）のような存在です。

見つけられたら、運気が上がるかもしれません。

処理場にお越しの際は、是非、運だめしをしてみませんか。

